

Kansai Economic Insight Monthly

2018/11/22

Vol.67 October/November

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR数量分析センター長)、木下祐輔(APIR調査役)・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet・馬騰(各APIR研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)です。

▼本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を公表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	10
中国景気モニター	11
主要月次統計	15
Release Calendar	16

要旨

- 景気は足下悪化が続くも先行きは改善の兆し※ -

- ✓ 9月の鉱工業生産指数は2カ月ぶりの前月比マイナスとなり、結果7-9月期は2四半期ぶりの前期比低下。近畿経産局は生産の基調判断を「緩やかな持ち直しの動きに一服感」と下方修正した。
- ✓ 10月の貿易収支は9カ月連続の黒字となったが、黒字幅は前年比縮小した。9月の台風の影響で一時的閉鎖した関空の物流機能が回復しつつあり、輸出と輸入はともに増加した。
- ✓ 10月の景気ウォッチャー現状判断DIは、2カ月ぶりの前月比改善。関空の機能が平常に戻り、インバウンド需要や百貨店の売上が回復傾向にあることなどが改善に寄与した。
- ✓ 8月の関西2府4県の現金給与総額は18カ月連続の前年比増加だが、伸びは1%未満にとどまった。また、実質現金給与総額はガソリン等エネルギー価格の上昇から6カ月ぶりに減少した。
- ✓ 9月の大型小売店販売額は3カ月連続の前年比マイナス。百貨店は台風の影響もあり2カ月ぶりの同マイナス。スーパーは農産品価格の高騰が続いており2カ月ぶりの同プラスとなった。
- ✓ 9月の新設住宅着工戸数は貸家と分譲の急増により4カ月ぶりの前年比増加。結果、7-9月期は2四半期連続の前年比プラスとなった。
- ✓ 9月の有効求人倍率は4カ月連続の前月比改善。依然として労働需給は引き締まった状態が続く。完全失業率は3カ月ぶりに小幅悪化したが、雇用情勢は引き続き堅調である。
- ✓ 10月の公共工事請負金額は3カ月連続の前年比マイナスだが、前月比(季節調整値)では3カ月ぶりのプラスであった。
- ✓ 9月の建設工事出来高は7カ月連続の前年比増加。結果、7-9月期は2四半期連続のプラスと持ち直しの動きがみられる。
- ✓ 10月関空の訪日外客数は2カ月ぶりに前年比増加したが、小幅にとどまった。国籍別では、8月は韓国・台湾・香港からの入国者数が3カ月連続で減少した。
- ✓ 中国10月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は2カ月連続で前月比下落。うち、生産指数も2カ月連続、輸出新規受注指数も3カ月連続といずれも悪化が続いている。

※景気の基調判断はAPIR(豊原法彦関西学院大学教授)開発の関西景気動向指数(CI, CLI)に基づいている。

【関西経済のトレンド】

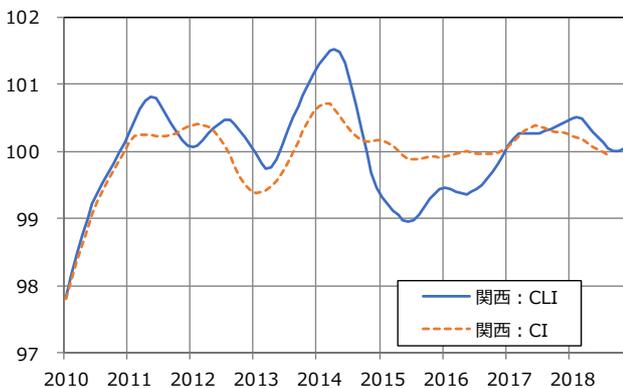
	2017年			2018年									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
生産	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↘	
貿易	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗
センチメント	↗	↗	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↗
消費	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	
住宅	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↗	↘	↘	↘	↗	
雇用	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↗	↗	
公共工事	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↗	↗	↘	↘	↘
中国	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘

(*トレンドの判断基準)

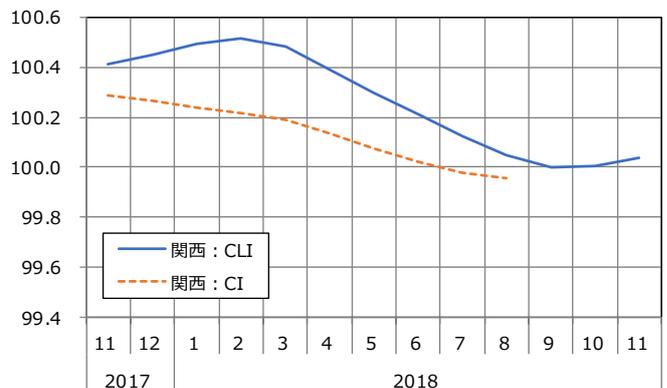
- ・ **生産**：近畿経済産業局『近畿地域臨工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2010年1月~2018年11月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2017年11月~2018年11月)



【鉱工業生産動向】

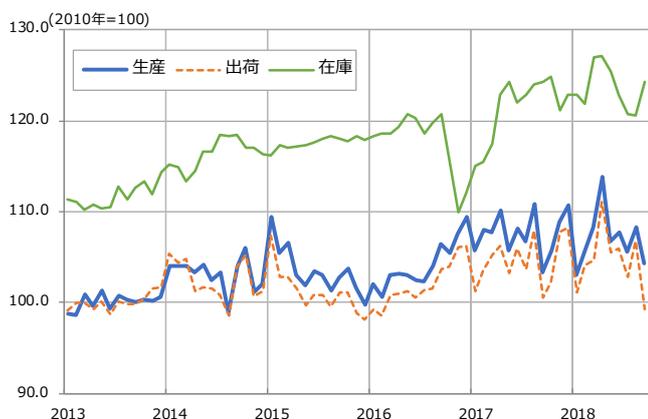
(1) 関西の生産動向

関西9月の鉱工業生産動向(速報値:季節調整済、2010年=100)によれば、生産は104.3で、前月比-3.7%と2カ月ぶりの低下。出荷は99.3で、同-7.0%と2カ月ぶりの低下。在庫は124.3で、同+3.1%と5カ月ぶりに上昇した。近畿経済産業局は同月の基調判断を「生産は緩やかな持ち直しの動きに一服感」と4カ月ぶりに下方修正した。結果、7-9月期の生産は前期比-3.0%と、2四半期ぶりに低下に転じた(4-6月期同+3.4%)。

なお、生産と強い関係がある実質輸出(季節調整済、2015年=100)を見ると、9月(確報値)は82.6で、前月比-27.9%と2カ月ぶりに大幅マイナス。9月の台風の影響による関空の一時閉鎖を受け、物流機能が滞ったためである。このため、7-9月期の実質輸出は前期比-9.5%と2四半期ぶりに大幅に低下した。

9月の生産指数を業種別にみると、電子部品・デバイス(前月比-10.3%、2カ月ぶり)、電気機械(同-7.5%、3カ月ぶり)、化学(除.医薬品)(同-4.3%、3カ月ぶり)等が減産となった。一方、金属製品(同+14.7%、2カ月ぶり)、石油・石炭製品(同+5.0%、2カ月連続)、その他(同+0.4%、4カ月ぶり)等が増産となった。

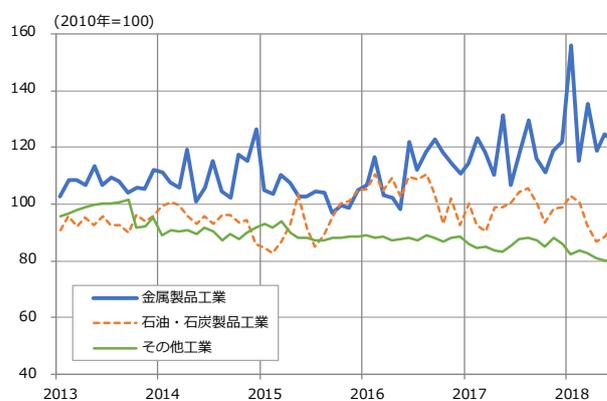
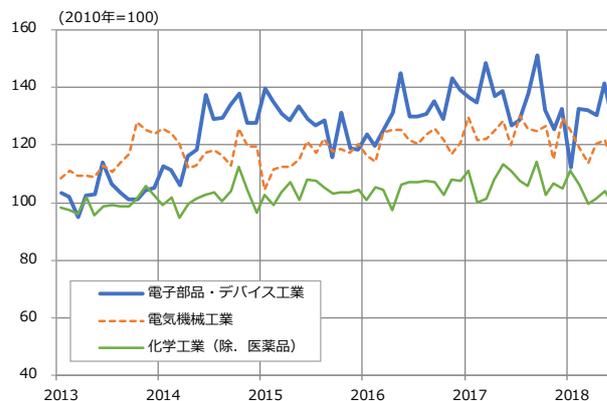
関西の鉱工業生産動向の推移(2013年1月~2018年9月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2013年1月~2018年9月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

(2) 全国の生産動向

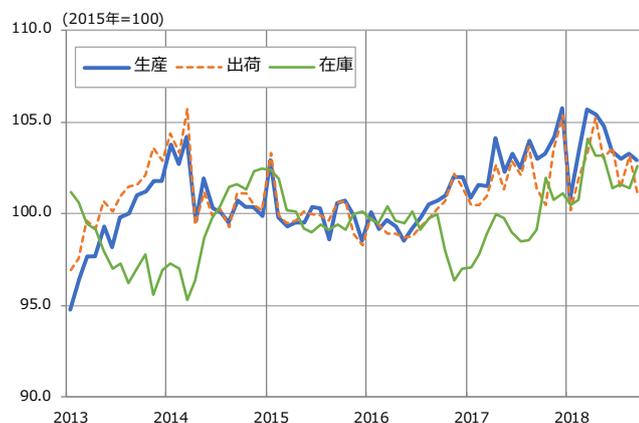
全国の鉱工業指数は、2018年9月確報値より、基準年を2010年から15年に改定した。9月の鉱工業指数(確報値:季節調整済、2015年=100)を見ると、生産は102.9で前月比-0.4%と2カ月ぶりの低下。出荷は101.1で同-2.0%と2カ月ぶりの低下。在庫は102.6となり同+1.2%と2カ月ぶりに上昇した。

業種別にみると、食料品・たばこ(前月比-3.9%)、電気・情報通信機械(同-2.8%)、鉄鋼・非鉄金属(同-2.4%)等が減産となった。一方、化学(除.無機・有機化学工業)(同+5.7%)、汎用・業務用機械(同+2.5%)、生産用機械(同+0.8%)等が増産となった。

結果、7-9月期の生産は前期比-1.3%と2四半期ぶりに低下に転じた。自然災害による供給制約が影響している。製造

工業生産予測調査(速報値、ただし 2010 年基準)によると、10 月は前月比+6.0%と増産が、11 月は-0.8%と減産が予測されている。

全国の鉱工業指数の推移(2013 年 1 月~2018 年 9 月)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

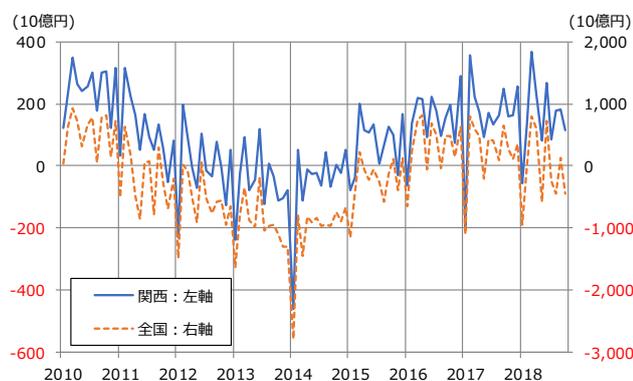
【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西 10 月の貿易収支は +1,159 億円と 9 カ月連続の黒字となった。黒字幅は前年同月(+1,601 億円)と比べて-27.6%縮小した。9 月の台風 21 号の影響で、一時閉鎖に追い込まれた関西国際空港の物流機能が回復しつつあることもあり、輸出と輸入はいずれも増加に転じた。

また、全国 10 月の貿易収支(速報値)は、-4,493 億円と 2 カ月ぶりの赤字となった。貿易収支は前年同月(+2,786 億円)から 7,278 億円縮小した。

関西・全国の貿易収支の推移(2010 年 1 月~2018 年 10 月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(2) 輸出

関西 10 月の輸出額(速報値)は 1 兆 5,178 億円で、前年同月比+6.5%と 2 カ月ぶりの増加。財別にみれば、原動機、建設用・鉱山用機械等が増加した(いずれも単月過去最高額)。

なお、日銀の実質輸出(季節調整値、2015 年平均=100)によると、10 月(速報値)は 110.4 となり、前月比+33.7%上昇し、前月の大幅低下(同-27.9%)を相殺する伸びとなった。このため、10 月実績は 7-9 月平均比+7.0%と上昇した。

全国 10 月の輸出額(速報値)は 7 兆 2,434 億円で、前年同月比+8.2%と 2 カ月ぶりの増加。財別に見れば、自動車、原動機、半導体等電子部品等が増加した。

関西・全国の輸出の推移(2010 年 1 月~2018 年 10 月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(3) 輸入

関西 10 月の輸入額(速報値)は 1 兆 4,019 億円、伸びは前年同月比+10.8%と 2 カ月ぶりに増加した。財別にみれば、天然ガス及び製造ガス、衣類及び同付属品等が増加した。

なお、日銀の実質輸入(季節調整値、2015 年平均=100)は、10 月(速報値)に 106.4 となり、前月比+39.7%上昇した。前月大幅低下(-26.3%)の反動で 5 カ月ぶりの増加となった。このため、10 月実績は 7-9 月平均比+12.5%大幅上昇した。

全国 10 月の輸入額(速報値)は 7 兆 6,927 億円で、前年同月比+19.9%と 7 カ月連続の増加。財別に見れば、原油、液化天然ガス、衣類・同付属品等が増加した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月~2018年10月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西10月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア(含中国)の貿易収支は+1,380億円と21カ月連続の黒字であり、黒字幅は前年同月比-41.4%大幅縮小した。輸出(9,830億円)は2カ月ぶりの増加(同+1.3%)。財別に見れば、電気回路等の機器、コンデンサ等が増加した。輸入(8,451億円)は2カ月ぶりの増加(同+15.0%)。財別に見ると、衣類及び同附属品、通信機等が増加した。

うち、対中貿易収支は-1,056億円と4カ月連続の赤字となり、赤字幅は前年同月比+343.3%増加した。うち輸出(3,906億円)は2カ月連続の減少(同-2.3%)。財別に見ると、科学光学機器、通信機等が減少した。輸入(4,963億円)は2カ月ぶりの増加(同+17.1%)。財別に見ると、通信機、衣類及び同附属品等が増加した。

対米貿易収支は+1,209億円となり、黒字幅は前年同月比+31.0%拡大し、2カ月ぶりに増加した。輸出(2,448億円)は2カ月ぶりの増加(同+24.7%)。財別に見れば、遊戯用具、無機化合物等が増加した。輸入(1,240億円)は2カ月ぶりの増加(同+19.0%)。財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、半導体等製造装置等が増加した。

対EU貿易収支は+47億円と3カ月連続の黒字となり、前年同月(-239億円)から+286億円改善した。輸出(1,599億円)は2カ月ぶりの増加(同+7.9%)。財別に見れば、原動機、建設用・鉱山用機械等が増加した。輸入(1,552億円)は3カ

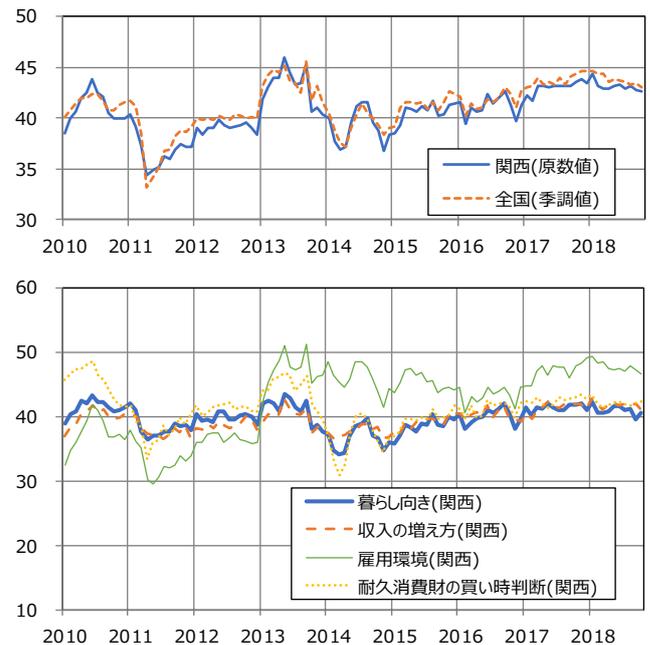
月連続の減少(同-9.8%)。財別に見れば、医薬品、たばこ等が減少した。

【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西10月の消費者態度指数(原数値)は42.6と前月比-0.1ポイント小幅下落し、2カ月連続で悪化した。同指数構成項目の内訳を見ると、収入の増え方指数(40.8)は同-1.0ポイント低下し、4カ月ぶりの悪化。また、雇用環境指数(46.6)は同-0.5ポイント下落し、2カ月連続の悪化。一方、暮らし向き指数(40.5)は同+0.9ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。9月の自然災害による影響が剥落したようである。耐久消費財の買い時判断指数(42.3)は同+0.1ポイント上昇し、2カ月連続の改善であった。

消費者態度指数の推移(2010年1月~2018年10月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

一方、全国(季節調整値)は43.0と前月比-0.4ポイント下落し、2カ月ぶりの悪化。ガソリン価格の高止まり、米中間の貿易摩擦への懸念から株価が値下がりしたことなどが影響したようである。同指数構成項目4指標のうち3項目で悪化した。内訳を見ると、雇用環境指数(46.8)は同-0.9ポイント低

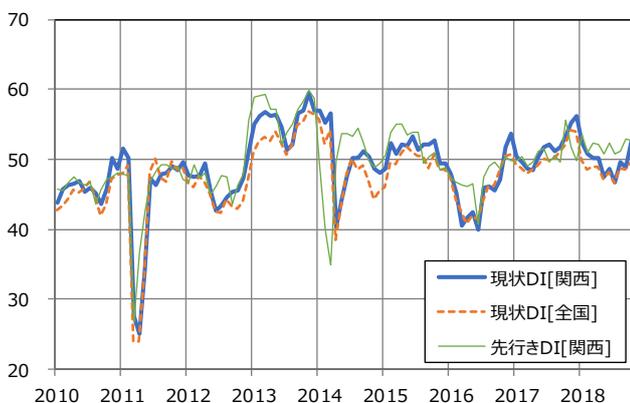
下し、2カ月ぶりの悪化。収入の増え方指数(41.3)は同-0.6ポイント小幅低下し、2カ月ぶりの悪化。暮らし向き指数(41.4)は同-0.1ポイント小幅低下し、2カ月連続の悪化であった。また、耐久消費財の買い時判断指数(42.4)は同横ばいであった。なお、今月から調査方法が郵送・オンライン併用調査に移行した。内閣府は基調判断を「弱い動きがみられる」と2カ月連続で据え置いた。

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西10月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は52.5と前月比+3.7ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。景気判断の分かれ目となる50を6カ月ぶりに上回った。関西国際空港機能が平常に戻ったインバウンド需要や百貨店の売上が回復傾向にあることなどから現状判断DIは改善した。また、全国と同指数は49.5と同+0.9ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善となったものの、10カ月連続で50を下回る状態が続いている。

一方、先行き判断DI(季節調整値)は関西では52.8と前月比-0.1ポイント小幅低下し、3カ月ぶりの悪化。今冬は暖冬になるとの予報から冬物商材の売れ行きへの期待はやや低いが、インバウンド需要が回復したこともあり、年末に向けて好調に推移すると見込まれている。全国は同-0.7ポイント低下し50.6となり、2カ月連続の悪化であった。

景気ウォッチャー調査の推移(2010年1月～2018年10月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

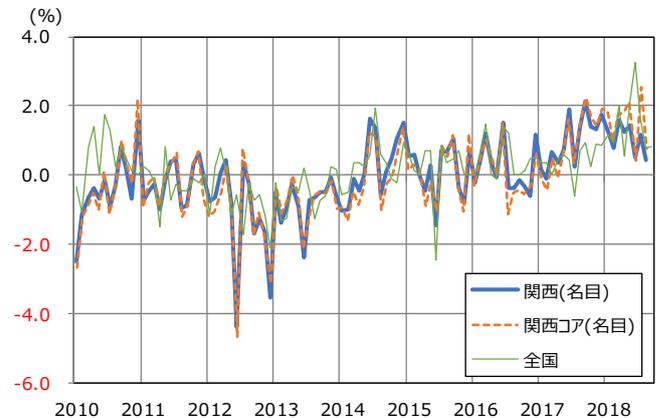
【所得・個人消費】

(1) 現金給与総額

関西2府4県の8月の現金給与総額(APIR推計)は27万85円で前年同月比+0.5%となり、18カ月連続で増加したものの、1%未満にとどまった。府県別では、大阪府が同+1.6%(15カ月連続)、和歌山県が同+0.9%(2カ月ぶり)、兵庫県が同+0.7%(13カ月連続)と増加した。一方、奈良県が同-4.4%(2カ月連続)、京都府が同-2.0%(2カ月ぶり)、滋賀県が同-0.5%(8カ月連続)でそれぞれ下落した。また、京都・大阪・兵庫の加重平均をとった8月の「関西コア」賃金指数(APIR推計)は前年同月比+0.8%増加し、16カ月連続の増加であった。

しかし、関西2府4県の現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた8月の実質現金給与総額(実質賃金)は、ガソリン等エネルギー価格の上昇から前年同月比-0.6%と6カ月ぶりに減少した。賃金の伸びは弱い。

現金給与総額の推移(2010年1月～2018年9月)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

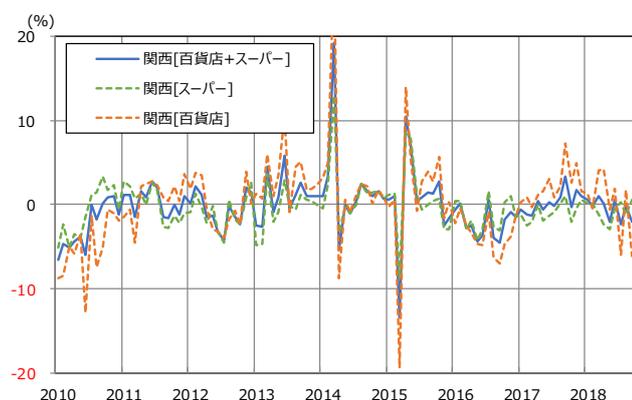
全国9月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比+0.8%と14カ月連続で増加したが、速報値(同+1.1%)から下方修正され、2カ月連続で1%未満にとどまった。内訳を見ると、所定内給与は同+0.7%(速報値:同+0.8%)と18カ月連続の増加。所定外給与は同+0.2%(速報値:同+0.4%)と11カ月連

続の増加。特別給与は同+8.3%(速報値:同+13.3%)と2カ月ぶりの増加。一方、実質現金給与総額は同-0.6%(速報値:同-0.4%)と2カ月連続で減少した。

(2) 大型小売店販売額

関西9月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は2,878億円となり、前年同月比-2.0%と3カ月連続のマイナス。うち、百貨店は同-6.1%と、2カ月ぶりのマイナス。台風21号の影響による関西の一時閉鎖を受け、インバウンド需要が激減したため。なお、関西の百貨店免税売上(日銀大阪支店)は、9月に同-12.5%(8月:同+21.5%)と23カ月ぶりの低下。単価は3カ月連続で減少(同-11.6%)した。また、スーパーは同+0.6%と2カ月ぶりのプラス。農産品価格の高騰が続いているためである。

大型小売店販売額の推移(2010年1月~2018年9月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

全国9月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆5,136億円、前年同月比+1.1%と2カ月連続のプラス。うち、百

貨店は同-3.8%と3カ月連続のマイナス。一方、スーパーは同+3.5%と4カ月連続のプラス。なお、小売業販売額(季節調整済指数、後方3カ月移動平均)は前月比+0.3%と2カ月連続で上昇した。経済産業省は基調判断を6カ月連続で続いていた「横ばい傾向」から今月は「緩やかに持ち直している」と上方修正した。

【住宅投資】

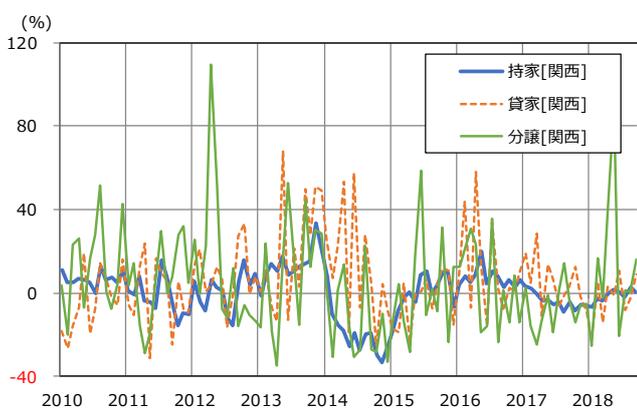
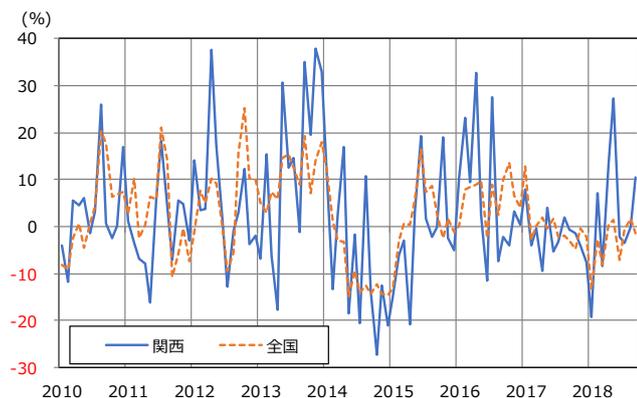
(1) 新設住宅着工の動向

関西9月の新設住宅着工戸数は12,545戸と前年同月比+10.5%と4カ月ぶりの増加。主に貸家と分譲の急増が寄与。

関西の住宅着工戸数を利用関係別にみると、持家は3,058戸で前年同月比+0.2%と2カ月連続の増加。貸家は5,408戸で同+9.1%と3カ月ぶりの増加。分譲は3,849戸で、同+15.8%と3カ月連続の増加であった。うち、マンションは1,906戸で、同+25.6%と2カ月ぶりのプラス。一戸建ても1,900戸で、同+5.7%と2カ月連続のプラス。結果、7-9月期の新設住宅着工戸数は前年同期比+2.0%と、2四半期連続のプラスとなった。持家、分譲は同+0.3%(2四半期連続)、同+5.2%(2四半期連続)といずれも増加した。一方、貸家は同-0.9%となり、2四半期ぶりのマイナスとなった。今後、消費税増税前の駆け込み需要の影響には引き続き注意が必要である。

また、全国9月の新設住宅着工戸数は81,903戸となり、前年同月比-1.5%と2カ月ぶりの減少。利用関係別にみると、持家は24,873戸で同-0.0%と3カ月ぶりの小幅減少。貸家は35,350戸で同-5.8%と2カ月ぶりの減少。分譲は21,064戸で同+4.3%と2カ月連続の増加であった。結果、7-9月期の新設住宅着工戸数は前年同期比-0.2%と、5四半期連続で減少。持家は同+0.1%と7四半期ぶりの増加。分譲は同+2.1%と3四半期ぶりの増加。一方、貸家は同-2.0%と5四半期連続で減少した。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月～2018年9月)

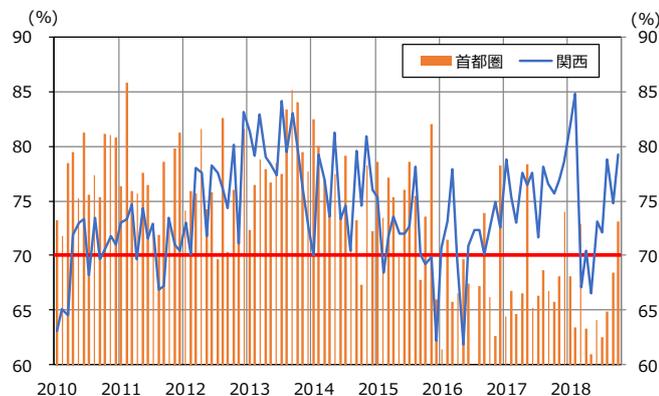


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

(2) マンション市場動向

関西10月のマンション契約率は79.2%(季節調整値:APIR推計)となり、前月から+4.4%ポイント増加した。伸びは2カ月ぶりに加速し、好不調の目安となる70%を5カ月連続で上回った。地域別にみると、兵庫県下では低調だったが和歌山県では100%、奈良県、大阪市部では90%前後と好調であった。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2010年1月～2018年10月)



(出所) 株式会社不動産研究所「マンション市場動向」

一方、同月の首都圏のマンション契約率は73.1%(季節調整値:APIR推計)と前月比+4.6%ポイントと3カ月連続のプラスとなり、7カ月ぶりに70%を上回った。

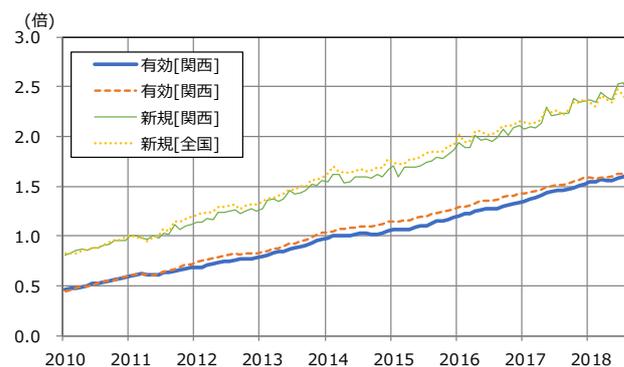
【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

関西9月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.64倍で前月比+0.02ポイント上昇し、4カ月連続の改善。内訳をみると、有効求人数が同+0.3%と2カ月連続の増加。一方、有効求職者数は同-1.1%と4カ月連続で減少しており、依然として労働需給は引き締まった状態が続く。府県別に見ると、滋賀県・京都府を除く4府県で前月から改善した。奈良県が1.54倍で同+0.07ポイント、兵庫県が1.49倍で同+0.03ポイント、大阪府が1.83倍で同+0.02ポイント、和歌山県が1.38倍と同+0.01ポイントそれぞれ上昇。一方、滋賀県が1.39倍で同横ばい、京都府が1.56倍と同-0.01ポイント小幅低下した。

関西9月の新規求人倍率は2.61倍で前月比+0.15ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。新規求人数は同-1.6%と4カ月ぶりに減少、新規求職者数も同-7.3%と3カ月ぶりに減少した。比較的好調であった前月までの反動と見られ、雇用情勢は引き続き堅調であるといえよう。

求人倍率(受理地別)の推移(2010年1月～2018年9月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

関西2府4県有効求人倍率(2018年8-9月)

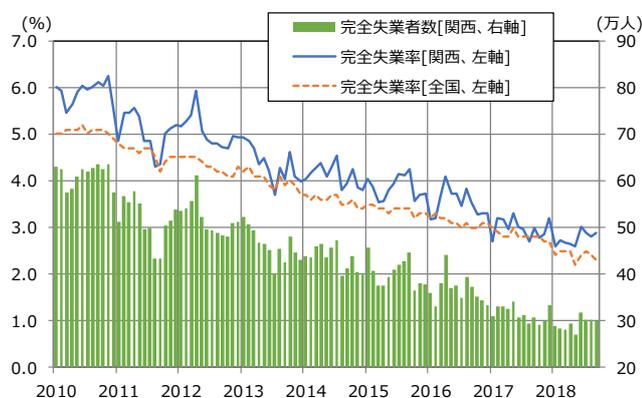
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
8月	1.63	1.62	1.39	1.57	1.81	1.46	1.47	1.37
9月	1.64	1.64	1.39	1.56	1.83	1.49	1.54	1.38
前月差	0.01	0.02	0.00	▲0.01	0.02	0.03	0.07	0.01

全国9月の有効求人倍率(季節調整値)は1.64倍と前月比+0.01ポイント小幅上昇し、2カ月ぶりの改善。新規求人倍率も2.50倍で同+0.16ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善となり、高水準で推移している。

(2) 完全失業率の推移

関西9月の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は2.9%と前月比+0.1%ポイント小幅上昇し、3カ月ぶりに悪化した。完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は29.9万人で前月比-0.4万人と2カ月ぶりに減少した。内訳を見ると、就業者数(季節調整値:APIR推計)が同-13.6万人と3カ月ぶりに減少し、非労働力人口(季節調整値:APIR推計)は同+12.3万人と3カ月ぶりに増加。結果、失業率は小幅上昇したが、引き続き雇用情勢は堅調であるといえよう。ただし、7-9月期の完全失業率は2.8%と前期比+0.1%ポイントと小幅上昇し、2四半期連続の悪化であった。

完全失業率の推移(2010年1月~2018年9月)



(出所)総務省「労働力調査」

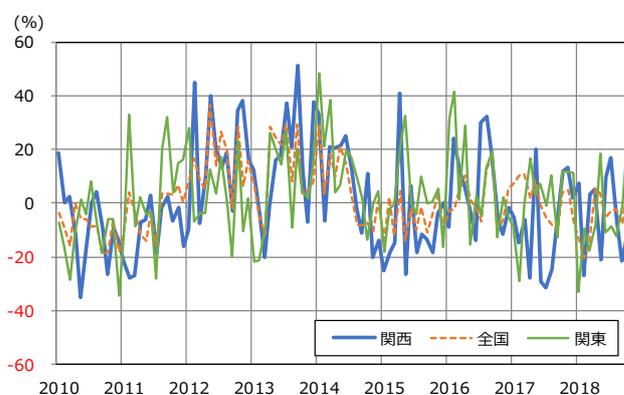
全国9月の完全失業率(季節調整値)は2.3%と、前月比-0.1%ポイント低下し2カ月連続で改善。2カ月連続で2%前半の水準となっている。完全失業者数(季節調整値)は160万人と前月比-7万人と2カ月連続で減少した。理由別では、「非自発的な離職」は同-4万人、「自発的な離職(自己都合)」が同+3万人、「新たに求職」は同-4万人減少した。結果、7-9月期の完全失業率は2.4%と前期比横ばいであった。

【公共投資・建設工事】

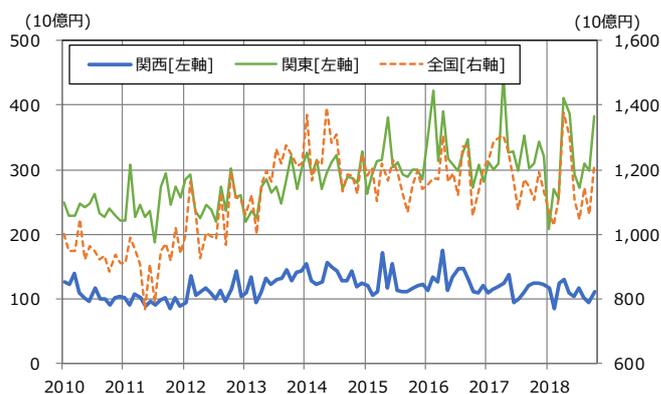
(1) 公共工事請負金額

関西10月の公共工事請負金額は1,169億円で前年同月比-10.0%と3ヶ月連続のマイナス。工事場所別にみると、増加したのは京都府(同+27.8%)、和歌山県(同+15.0%)であった。一方、滋賀県(同-40.3%)、奈良県(同-31.3%)で減少した。しかし、季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は前月比+18.6%と3カ月ぶりのプラスとなった。今後、自然災害からの復旧・復興関連作業で関西の公共工事請負金額が増えると思込まれる。

公共工事請負金額(伸び率)の推移(2010年1月~2018年10月)



公共工事請負金額(季調値)の推移(2010年1月~2018年10月)



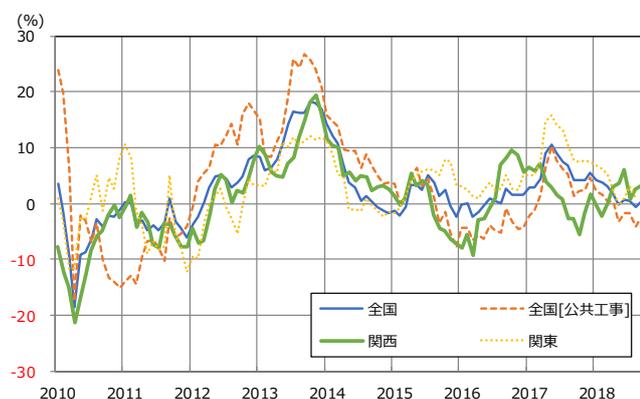
(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

一方、関東は4,229億円で前年同月比+23.3%と5カ月ぶりの増加。全国は1兆2,823億円で同+9.5%と5カ月ぶりの増加であった。季節調整値(APIR推計)で見ると、関東も同+27.8%と前月(同-3.5%)から大幅に改善。同様に全国も同+14.4%と前月(同-7.4%)から大幅に改善した。

(2) 建設工事

関西9月の建設工事出来高は5,543億円となり、前年同月比+3.3%と7カ月連続の増加。関東は1兆6,796億円で同+1.5%と4カ月連続で増加した。結果、関西の7-9月期の建設工事出来高は1兆5,884億円となり、前年同期比+2.2%と2四半期連続の増加となった。また、関東の建設工事出来高は4兆8,746億円となり、同+1.8%増加した。関東ではオリンピック・パラリンピックの影響もあり、15年4-6月期から14四半期連続で増加が続いている。他方、関西では18年から持ち直しの動きがみられ、さらに自然災害からの復興工事で今後も増加すると考えられる。

建設工事出来高の推移(2010年1月~2018年9月)



(注) 2016年4月分より新推計に基づく出来高の参考値を反映。(出所)国土交通省「建設総合統計」

全国9月の建設工事出来高は4兆7,051億円となり、前年同月比+0.3%と2カ月ぶりのプラス。うち、公共工事は1兆8,266億円で同-2.6%と5カ月連続のマイナスとなった。公共工事は低迷の傾向にあるとみられる。7-9月期の建設工事出来高は前年同期比+0.1%と9四半期連続で増加したものの、2017年7-9月期以降伸びは減速が見られる。うち、公共工事は同-2.9%と2四半期連続のマイナスであった。

【関西モニター】

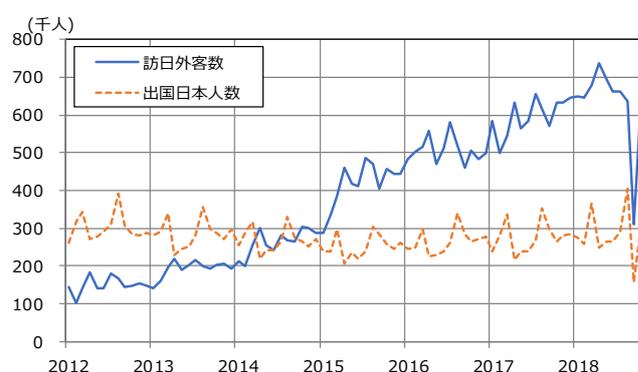
(1) 訪日外客数トレンド

10月の関西への外国人入国者数は65万480人となり、伸びは前年同月比+2.6%小幅増加し2カ月ぶりのプラス。前月

は9月上旬の台風21号や同月下旬の台風24号の影響で大きく落ち込んだものの、平常運転再開に伴い、入国者数は回復したようである。一方、外国人出国者数は63万8,240人と同-1.1%と小幅減少し、2カ月連続のマイナスとなった。結果、外国人出入国者数は128万8,720人と同+0.8%と2カ月ぶりの増加であった。

また、日本人出国者数は31万2,490人で、前年同月比+17.7%と2カ月ぶりに増加した。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012年1月~2018年10月)



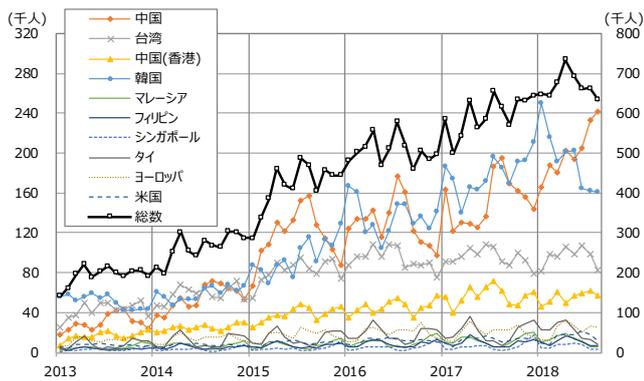
(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

関西訪日外客数を国籍別・地域別にみると、8月は中国(香港除く)からの入国者数が24万1,154人(前年同月比+23.4%)となり、3カ月連続で最多となった。次いで、韓国が16万5,512人(同-13.3%)、台湾が8万2,853人(同-8.9%)、香港が5万6,572人(同-7.9%)であった。韓国・台湾・香港からの入国者数は3カ月連続で減少している。大阪北部地震や豪雨の影響で予約のキャンセルが発生するなど、訪日を控えた旅行者が多かったことが影響していると見られる。

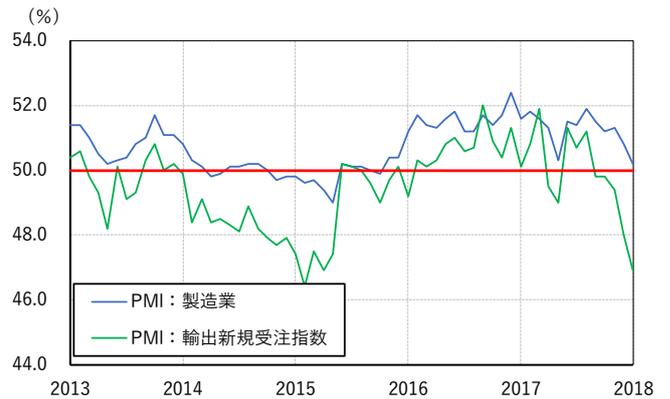
他のアジア各国は、タイが8,463人(前年同月比+15.2%)、フィリピンが7,066人(同+24.4%)、マレーシアが5,173人(同-15.2%)、シンガポールが2,748人(同+26.2%)であった。他地域を見ると、欧州全体では2万4,586人(同+11.3%)、米国が1万1,993人(同+13.9%)であった。

地域別訪日外客数(右軸：総数、左軸：各国、2018年8月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

製造業購買担当者景況指数(2013年10月～2018年10月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

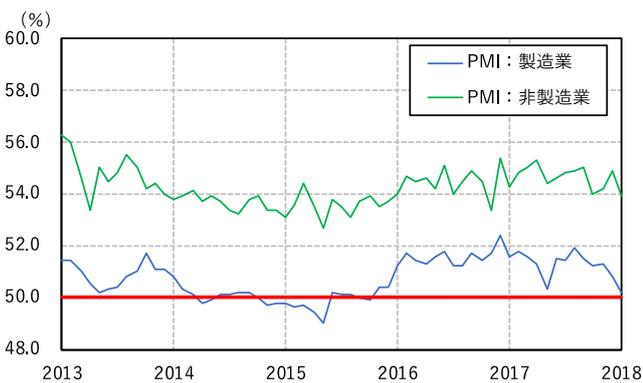
【中国景気モニター】

(1) センチメント

10月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.2となり、前月比-0.6%ポイントと2カ月連続で下落したが、27カ月連続で景気分岐点である50を上回った。非製造業PMIは53.9となり、同-1.0%ポイントと3カ月ぶりに下落した。

製造業PMIのうち、生産指数は52.0と前月から-1.0%ポイント低下し、2カ月連続の悪化。輸出新規受注指数は46.9と同-1.1%ポイント低下し、3カ月連続の悪化。雇用指数は48.1と同-0.2%ポイントと2カ月連続で悪化し、19カ月連続で50を下回った。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2013年10月～2018年10月)



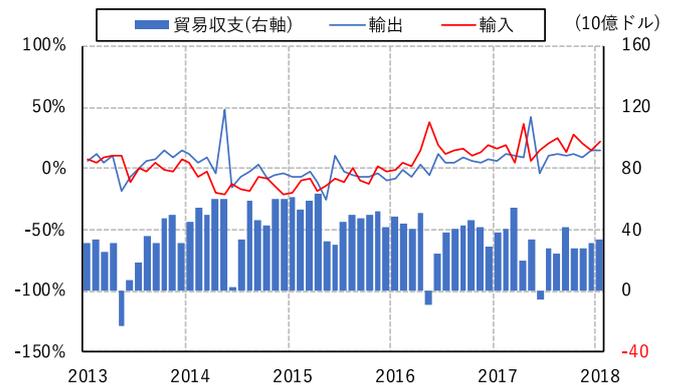
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 貿易動向

10月の貿易収支は340.2億ドルで7カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は2,172.8億ドル、前年同月比+15.0%と7カ月連続の増加。輸入額は1,832.7億ドル、同+21.5%と24カ月連続で増加した。

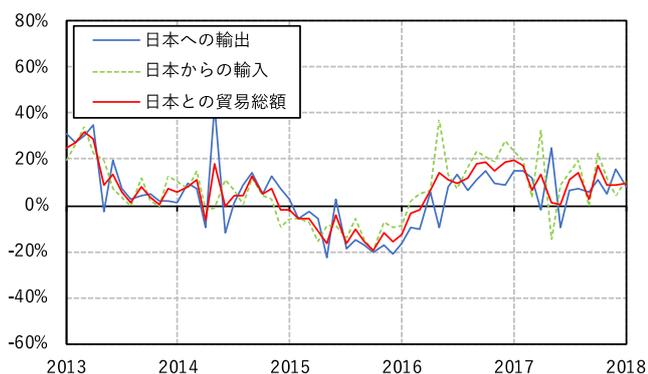
また、対日貿易収支は-26.3億ドルとなり、21カ月連続の赤字となった。対日輸出額は126.2億ドルとなり、前年同月比+7.9%と7カ月連続の増加。対日輸入額は152.6億ドルとなり、同+11.4%で8カ月連続の増加。なお、円ベースで見ると、対日輸出額は同+7.7%と7カ月連続の増加。また、対日輸入額は同+11.2%と4カ月連続で増加した。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2013年10月～2018年10月)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易(円ベース, 2013年10月~2018年10月)

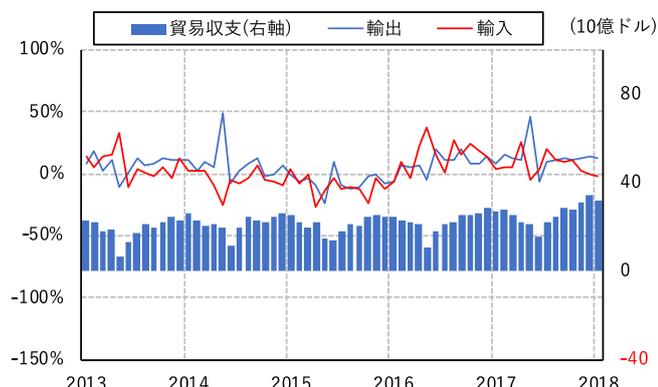


(出所) 中国税関; CEICデータベース; APIR 計算

[最近の対米貿易]

10月の中国の対米貿易黒字は317.8億ドルと前月(341.3億ドル)から縮小した。同月の対米輸出額は427.2億ドルと前年同月比+13.2%で、7カ月連続の増加。一方、対米輸入額は109.4億ドルとなり、同-1.8%と2カ月連続の減少であった。

対米輸出入の動向(2013年10月~2018年10月)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

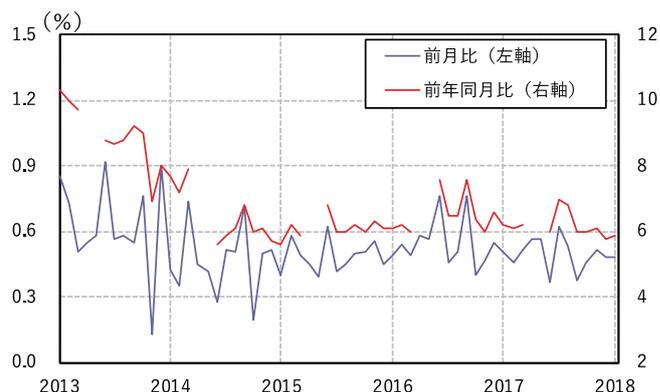
中国と米国の貿易摩擦が高進している。特に、農務省のデータにより、米国大豆の対中輸出量は報復関税の発表以降大幅に減少している。10月の対中輸出量は20.4万トンとなり、前年同月の591.9万トンから-96.6%大幅減少している。米国产大豆の輸入を避けて米国以外(ブラジル等)で生産された大豆に切り替えが行われている。しかし、他国からの代替で賄うことができず、需給状況がタイトとなり、大豆流通価格は10月下旬から4,000人民元/トン台を超え、11月上旬には3期連続で前年比上昇した。大豆の国内需給を緩和するため、10

月に米国からの大豆輸入を再開している。

(3) 工業生産

10月の工業生産は前月比+0.48%となり、伸びは前月から横ばいであった。また、前年同月比+5.9%と前月から+0.1%ポイント小幅上昇した。

工業生産指数(2013年10月~2018年10月)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

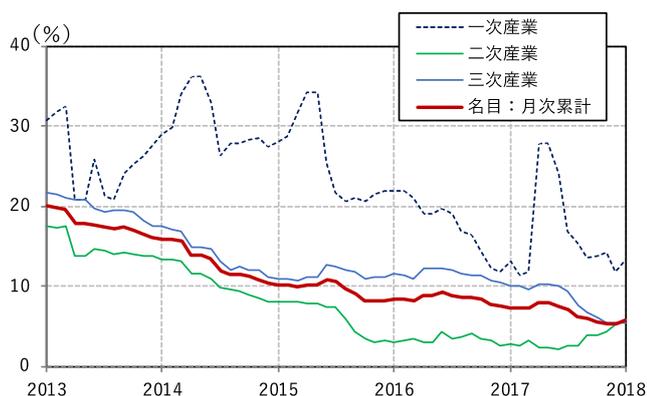
産業別に見ると、パソコン・通信設備製造業(前年同月比+14.6%)、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+10.1%)、有色金属圧延加工業(同+8.7%)などが高い伸びを示す一方で、金属製品製造業(同+3.1%)、ゴム・プラスチック製品製造業(同+2.4%)、繊維工業(同+1.1%)などは比較的低調な伸びにとどまった。インフラ用の需要が伸び、鉄鋼の生産が伸びた一方で、国内需要の低迷や制裁関税の影響により自動車製造業(同-0.7%)は前月(同+0.7%)から減産となった。

(4) 固定資産投資

1-10月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+5.7%となり、1-9月期(同+5.4%)より+0.3%ポイント小幅上昇し、2カ月連続で加速した。

また、第1次産業は前年同期比+13.4%増加し、伸びは前月から+1.7%ポイントと2カ月ぶりに加速。第2次産業は同+5.8%と前月から+0.6%ポイントと5カ月連続で加速。第3次産業は同+5.4%で、伸びは前月から+0.1%ポイントと8カ月ぶりに加速した。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2013年10月~2018年10月)

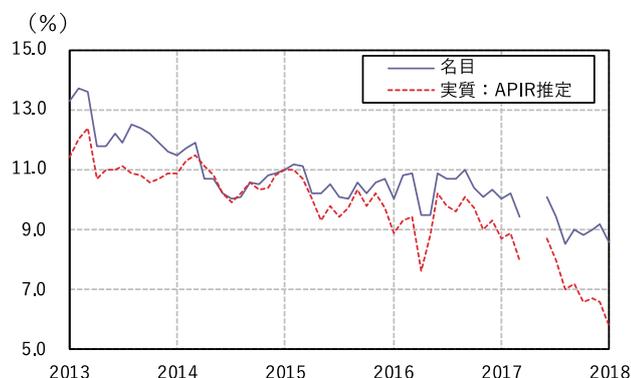


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

10月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+8.6%となり、伸びは前月から-0.6%ポイント下落した(3カ月ぶりの減速)。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR 推計)をみると、伸びは同+5.8%と前月から-0.8%ポイント下落した。2カ月連続のマイナス。

社会消費品小売総額(2013年10月~2018年10月)



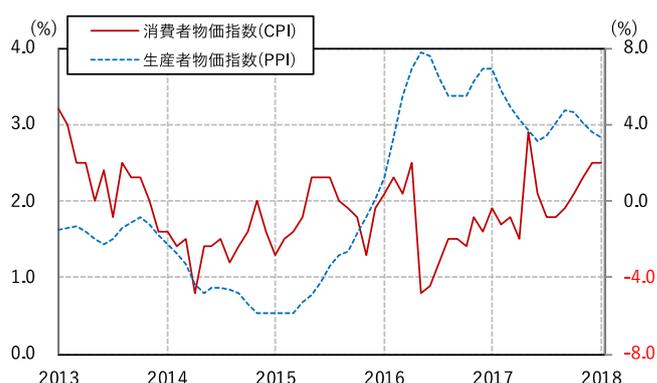
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

10月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.5%で、前月と同水準であった。うち、食品価格は同+3.3%上昇し、CPIへの寄与度は0.64%ポイントであった。また、非食品価格は同+2.4%上昇しており、CPIへの寄与度は1.90%ポイントであった。

また、生産者物価指数(PPI)は前年同月比+3.3%となり、前月から-0.3%ポイント下落し、4カ月連続で減速した。うち、生産財(生産資料)価格は同+4.2%上昇し、前月から-0.4%ポイント減速した。消費財(生活資料)価格は同+0.7%上昇し、前月から-0.1%ポイント減速した。

消費者物価指数・生産者物価指数(2013年10月~2018年10月)

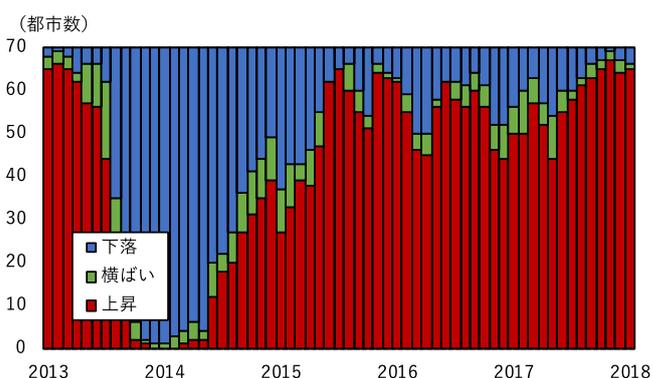


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(7) 不動産市場

10月の不動産市場は好調が続いている。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は65で前月から1都市増加した。一方、下落した都市数は4で前月から1都市増加した。また、横ばいの都市数は1で前月から2都市減少した。

新築住宅価格の主要都市集計(2013年10月~2018年10月)



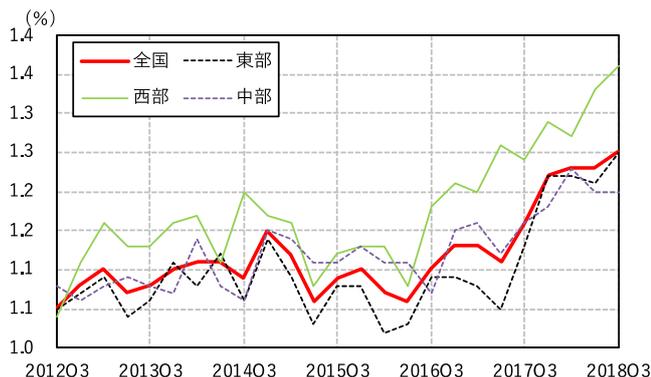
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(8) 求人倍率

7-9 月期の有効求人倍率は 1.25 倍となり、4-6 月期より +0.02 ポイント上昇した。求人倍率を地域別に見ると、東部は 1.25 倍で前年同期比+0.04 ポイント上昇(3 四半期ぶり)、中部は 1.20 倍で同横ばいであった。西部は 1.36 倍で同 +0.03 ポイント上昇(2 四半期連続)した。

Contact : 木下祐輔・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet・馬騰
Tel. 06-6485-7694
E-mail. contact@apir.or.jp

有効求人倍率(2012 年 7-9 月期~2018 年 7-9 月期)

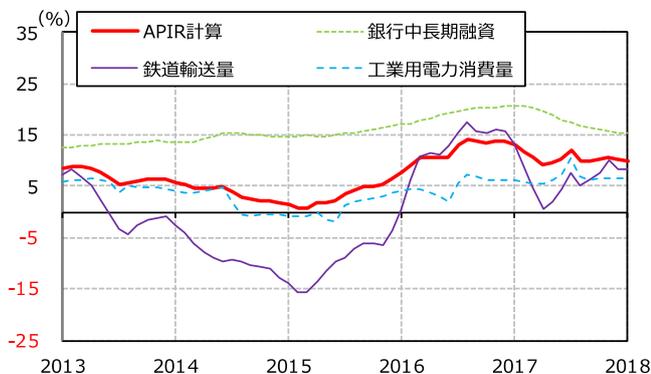


(出所)中国労働市場情報観測センター; CEIC データベース

(9) リコノミクス指数

9 月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年同月比+10.0%と前月から-0.1%ポイント下落した。内訳をみると、銀行中長期融資は同+15.2%となり、伸びは前月から-0.3%ポイント低下し、12 カ月連続の減速。鉄道輸送量は同+8.4%となり、伸びは前月から-0.1%ポイント低下し、2 カ月連続の減速。工業用電力消費量は同+6.5%となり、伸びは前月から-0.1%ポイント下落し、2 カ月連続で減速した。

APIR 試算のリコノミクス指数と内訳(2018 年 9 月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

【主要月次統計】

月次統計	17/10M	17/11M	17/12M	18/1M	18/2M	18/3M	18/4M	18/5M	18/6M	18/7M	18/8M	18/9M	18/10M
景況感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	53.3	55.2	56.2	52.4	50.7	50.1	50.1	47.5	48.6	46.7	49.6	48.8	52.5
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	55.6	51.7	49.9	53.4	51.0	52.3	52.1	50.8	52.4	50.8	51.2	52.9	52.8
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	52.0	54.1	53.9	49.9	48.6	48.9	49.0	47.1	48.1	46.6	48.7	48.6	49.5
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	54.5	53.4	52.7	52.4	51.4	49.6	50.1	49.2	50.0	49.0	51.4	51.3	50.6
消費者心理・小売													
[関西]消費者態度指数(原数値)	43.6	43.8	43.4	44.4	43.2	42.9	42.9	43.2	43.3	42.9	43.2	42.7	42.6
[関西]〃暮らし向き(原数値)	41.7	41.9	40.9	42.2	40.6	40.6	40.7	41.5	41.5	40.9	41.2	39.6	40.5
[関西]〃収入の増え方(原数値)	41.8	41.9	41.0	42.7	41.8	41.1	41.6	42.1	41.7	41.8	41.8	41.8	40.8
[関西]〃雇用環境(原数値)	47.9	48.2	49.1	49.3	48.2	48.5	47.4	47.1	47.4	47.0	47.9	47.1	46.6
[関西]〃耐久消費財の買い時判断(原数値)	43.0	43.3	42.7	43.4	42.2	41.3	41.7	42.1	42.4	41.9	41.7	42.2	42.3
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	44.4	44.6	44.6	44.6	44.3	44.3	43.6	43.8	43.7	43.5	43.3	43.4	43.0
[関西]大型小売店販売額(10億円)	310.3	329.4	410.6	332.9	286.3	316.9	305.1	302.8	306.5	331.0	304.9	287.8	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	-0.2	1.7	1.0	0.6	-0.1	1.0	0.2	-2.0	0.5	-2.4	-0.2	-2.0	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,588.8	1,671.3	2,092.1	1,682.6	1,456.5	1,635.1	1,556.4	1,566.4	1,603.0	1,700.2	1,575.0	1,513.6	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	-0.5	1.4	1.2	0.5	0.5	0.2	-0.1	-1.4	2.1	-1.0	0.6	1.1	UN
住宅・建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	12,164	11,764	10,224	9,196	11,387	10,788	13,392	14,140	11,737	12,151	11,768	12,545	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比%)	-1.5	-4.0	-7.7	-19.4	7.0	-8.5	13.4	27.2	-2.2	-3.6	-0.2	10.5	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	83,057	84,703	76,751	66,358	69,071	69,616	84,226	79,539	81,275	82,615	81,860	81,903	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比%)	-4.8	-0.4	-2.1	-13.2	-2.6	-8.3	0.3	1.3	1.3	-7.1	-0.7	-0.7	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	75.6	76.9	78.6	81.9	84.9	67.1	70.4	66.6	73.1	72.1	78.8	74.8	79.2
[関西]マンション契約率(原数値)	74.2	77.7	74.9	78.1	83.9	67.3	71.0	69.5	75.6	74.0	80.6	72.8	77.7
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	65.7	68.1	74.0	68.1	63.5	73.0	63.3	61.0	64.1	62.6	64.9	68.5	73.1
[首都圏]マンション契約率(原数値)	60.7	67.9	72.5	65.2	65.0	74.7	63.0	62.2	66.0	67.8	64.5	66.5	67.5
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	129.9	85.4	97.5	65.4	49.8	122.2	211.7	116.4	134.5	140.9	95.4	109.3	116.9
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	11.7	13.2	1.8	7.5	-26.9	3.4	4.9	-21.0	9.9	17.1	-7.1	-21.6	-10.0
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,171.2	863.3	797.3	610.1	613.9	1,269.7	2,177.7	1,285.7	1,433.9	1,252.0	1,124.1	1,218.6	1,282.3
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	3.9	5.0	-6.4	-12.8	-20.2	-14.5	5.5	3.5	-5.6	-2.9	-2.2	-7.6	9.5
[関西]建設工事(総合、10億円)	547.9	586.5	608.9	589.9	570.2	558.6	484.7	482.3	513.4	504.7	529.4	554.3	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	-5.6	-1.8	1.6	0.0	-2.2	0.2	2.9	3.7	6.2	0.9	2.5	3.3	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,902.6	4,970.9	5,054.8	4,929.2	4,808.8	4,751.6	3,960.9	3,893.5	4,124.0	4,264.0	4,447.2	4,705.1	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	4.2	4.3	5.4	4.3	3.7	3.1	1.5	-0.2	0.7	0.5	-0.5	0.3	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	2,043.9	2,085.1	2,164.5	2,094.8	2,041.1	2,047.6	1,455.3	1,380.9	1,479.7	1,540.2	1,642.2	1,826.6	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	2.2	2.5	4.6	2.2	1.6	0.5	0.3	-3.3	-1.7	-1.8	-4.1	-2.6	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	105.7	108.9	110.7	103.1	105.9	108.3	113.9	106.7	107.7	105.6	108.4	104.3	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	2.2	3.0	1.7	-6.9	2.7	2.3	5.2	-6.3	0.9	-1.9	2.7	-3.7	UN
[関西]〃出荷指数(原数値、前年同月比%)	0.1	1.6	1.3	1.6	-0.8	1.2	5.1	3.5	-1.7	1.0	-0.4	-4.1	UN
[関西]〃在庫指数(原数値、前年同月比%)	7.8	10.2	9.7	6.8	5.6	8.2	3.5	1.0	0.7	-1.7	-3.0	0.0	UN
[関西]〃出荷指数(季節調整値、10年=100)	102.2	107.8	108.3	101.1	104.1	104.7	111.1	105.6	105.9	102.9	106.2	99.3	UN
[関西]〃出荷指数(季節調整値、前月比)	1.7	5.5	0.5	-6.6	3.0	0.6	6.1	-5.0	0.3	-2.8	3.2	-7.0	UN
[関西]〃在庫指数(季節調整値、10年=100)	124.9	121.2	122.9	122.9	121.9	127.0	127.2	125.5	122.9	120.8	120.2	124.3	UN
[関西]〃在庫指数(季節調整値、前月比)	0.5	-3.0	1.4	0.0	-0.8	4.2	0.2	-1.3	-2.1	-1.7	-0.5	3.1	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	102.8	103.5	105.4	100.7	102.7	104.1	104.6	104.4	102.5	102.3	102.5	102.9	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	0.5	0.7	1.8	-4.5	2.0	1.4	0.5	-0.2	-1.8	-0.2	0.2	-0.4	UN
[全国]〃出荷指数(原数値、前年同月比%)	2.8	2.4	4.3	2.2	0.7	1.4	3.6	3.3	-0.2	1.2	0.5	-2.9	UN
[全国]〃在庫指数(原数値、前年同月比%)	1.9	2.8	1.9	1.5	1.6	3.9	1.7	2.5	2.4	2.8	3.0	3.5	UN
[全国]〃出荷指数(季節調整値、10年=100)	99.4	101.3	103.3	98.7	100.3	101.5	103.1	101.5	101.8	99.8	101.5	101.1	UN
[全国]〃出荷指数(季節調整値、前月比)	-0.4	1.9	2.0	-4.5	1.6	1.2	1.6	-1.6	0.3	-2.0	1.7	-2.0	UN
[全国]〃在庫指数(季節調整値、10年=100)	110.5	109.8	109.8	109.3	109.9	113.5	112.8	113.5	111.4	111.2	110.8	102.6	UN
[全国]〃在庫指数(季節調整値、前月比)	2.9	-0.6	0.0	-0.5	0.5	3.3	-0.6	0.6	-1.9	-0.2	-0.4	1.2	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	1.4	1.3	1.7	1.3	0.8	1.6	1.2	1.4	0.5	1.2	0.5	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	1.6	1.4	1.9	1.9	1.0	1.8	1.8	2.1	0.4	2.5	0.8	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	0.2	0.9	0.9	1.2	1.0	2.0	0.6	2.1	3.3	1.6	0.8	0.8	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	2.8	2.9	3.2	2.6	2.7	2.7	2.7	2.6	3.0	2.9	2.8	2.9	UN
[関西]完全失業率(原数値)	2.8	2.6	2.8	2.7	2.8	2.7	2.6	2.5	3.0	3.0	3.0	3.1	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	2.8	2.7	2.7	2.4	2.5	2.5	2.5	2.2	2.4	2.5	2.4	2.3	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.38	2.34	2.36	2.37	2.34	2.44	2.39	2.37	2.53	2.54	2.46	2.61	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.35	2.34	2.38	2.34	2.30	2.41	2.37	2.34	2.47	2.42	2.34	2.50	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.49	1.51	1.52	1.54	1.54	1.57	1.56	1.56	1.58	1.60	1.62	1.64	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.55	1.56	1.59	1.59	1.58	1.59	1.59	1.60	1.62	1.63	1.63	1.64	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	160.1	162.8	256.1	-54.7	133.6	368.4	236.3	82.3	268.1	85.6	179.2	180.6	115.9
[関西]輸出(10億円)	1,425.3	1,520.4	1,589.4	1,303.4	1,353.5	1,607.2	1,443.2	1,402.8	1,520.9	1,434.1	1,519.3	1,119.4	1,517.8
[関西]輸出(前年同月比%)	14.4	21.5	12.0	19.5	0.0	8.9	8.1	13.2	9.9	7.9	9.9	-24.5	6.5
[関西]輸入(10億円)	1,265.2	1,357.6	1,333.4	1,358.1	1,220.0	1,238.8	1,207.0	1,320.5	1,252.8	1,348.6	1,340.1	931.7	1,401.9
[関西]輸入(前年同月比%)	20.8	15.5	18.0	5.5	22.3	-1.2	4.0	15.3	3.4	12.9	9.8	-24.4	10.8

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

Release Calendar for October/November

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
22-Oct 出入国者数(9月)* 7-9月期中国 GDP 中国不動産市場 (9月)	23-Oct 毎月勤労統計 (8月:確報値) 中国輸出入 (9月:確定値)	24-Oct	25-Oct 出入国管理統計 (8月)	26-Oct 近畿地域 鉱工業生産動向 (8月確報)
29-Oct 商業動態統計 (9月:速報)	30-Oct 財務省貿易統計 (8月:確報) 財務省貿易統計 (9月:確・速) 求人倍率(9月) 完全失業率(9月) 中国製造業 PMI (10月)	31-Oct 新設住宅着工 (9月) 消費動向調査 (10月) 鉱工業指数 (9月:速報)	1-Nov	2-Nov
5-Nov	6-Nov	7-Nov 毎月勤労統計 (9月:速報値)	8-Nov 景気ウォッチャー調査 (10月) 中国輸出入 (10月:速報値)	9-Nov 近畿地域 鉱工業生産動向 (9月速報) 大阪税関貿易統計 (8月確報)* 大阪税関貿易統計 (9月確・速)* 中国 CPI&PPI (10月)
12-Nov	13-Nov	14-Nov 鉱工業指数 (9月:確報) 中国固定資産投資 (10月) 中国工業生産 (10月) 中国消費小売総額 (10月)	15-Nov 商業動態統計 (9月:確報) マンション契約率 (10月) 公共工事前払保証額 統計(10月) 中国不動産市場 (10月)	16-Nov 建設総合統計 (9月)
19-Nov 財務省貿易統計 (10月:速報) 大阪税関貿易統計 (10月:速報)	20-Nov 出入国者数(10月)*	21-Nov	22-Nov 毎月勤労統計 (9月:確報値)	23-Nov 中国輸出入 (10月:確定値)
26-Nov 近畿地域 鉱工業生産動向 (9月確報)* 出入国管理統計 (9月)	27-Nov	28-Nov 商業動態統計 (10月:速報) 財務省貿易統計 (9月:確報) 財務省貿易統計 (10月:確・速)	29-Nov 求人倍率(10月) 完全失業率(10月) 鉱工業指数 (10月:速報) 新設住宅着工(10月) 消費動向調査(11月)	30-Nov

*印は発表予定日が未定。 **公表日は翌日。